

野球による外傷・障害における年代別特徴と原因に関する調査

宇野 翔 (競技スポーツ学科 トレーニング・健康コース)

指導教員 小松 猛

キーワード：傷害履歴，スパイク，野球

1. 緒言

野球は国民的スポーツであり、多くの人が競技している。野球による外傷・障害の種類は豊富であり、肩関節・肘関節・手関節・腰・膝関節・足関節など、多くの外傷・障害を起こす可能性がある。自身の経験からも、野球における傷害の特徴や傾向は、年齢やポジション、使っているスパイクやボール、環境によって変わってくるのではないかと考え、これらを研究のテーマとした。

本研究ではそれぞれの年代における傷害履歴を分析し、年齢、ポジション別、野球競技年数、使用球、スパイクなどの違いによる傷害特性やその傷害原因を検討することを目的とする。

2. 研究方法

対象者は、高校硬式野球部員の高校生 42 名、中学生硬式クラブチーム部員の中学生 23 名、中学校軟式野球部員の中学生 17 名、スポーツ少年団軟式野球部員の小学生 20 名の合計 102 名とした。これらの対象者・チームの代表者に対し、傷害に関するアンケート・インタビューを行い、得られたデータを基に、ポジション別傷害履歴、年代別の傷害履歴、スパイク別の傷害履歴、ボール別(硬式と軟式)の傷害履歴、これらの特性と原因と考えられる因子について検討した。

3. 結果および考察

ポジション別傷害履歴においては、投手では「肩関節」、「肘関節」、捕手では「腰」、「膝関節」、内野手では「足関節」、「肩関節」、外野手では「下腿」の傷害が多い傾向

にあった。

年代別の傷害履歴では、スパイクが関係している可能性が高いことが分かった。特に、スパイクの種類が大きく変わる中学生以上の傷害履歴では、樹脂底金属のスパイクに比べて革底金属のスパイクを使用している選手のほうに「腰」と「膝関節」の傷害が増える傾向が見られた(表 1)。これは地面からの衝撃が直接足に伝わりやすいためだと考えられる。

表 1. スパイク別の傷害履歴の比較

	革底金属 33 人	樹脂底金属 48 人
腰	7	6
膝関節	<u>11(33.3%)</u>	1

ボール別での傷害の履歴の比較では、中学生時代に硬球を使用していた選手の方が「肩関節」と「肘関節」の傷害を起こす割合が高い傾向にあった。

4. まとめ

本研究ではスパイクの種類が傷害に影響するという新しい知見を得た。

参考文献

伊藤栄治ら (2006) 「野球部新入部員における傷害についての意識調査」, 東海大学紀要. 体育学部 36, pp179-184.